

- 22) 北村四郎・岡本省吾(1958) 原色樹木図鑑 95, 保育社, 大阪
- 23) 倉田悟(1971) 原色日本林業樹木図鑑 第3巻 32, pl. 16
- 24) 館脇操(1949) プナの北限界, 生態学研究 11(1-2):46-51
- 25) 宗像英雄(1975) 北海道南茅部町の植生 13, 南茅部町教育委員会, 函館
- 26) 猪熊泰三・鈴木時夫・岡本省吾(1953) 北海道ブナ林植生調査報告, 第2表, 函館営林局
- 27) Braun-Blanquet, J.(1959) Grundfragen und Aufgaben der Pflanzensoziologie. Vistas in Botany 145-171

〔植物ニュース〕ここでは、植物の短い観察記録や分布記録など、断片的なニュースを種類ごとにとりあげることにした。手軽にニュースを寄せられるよう期待したい。

1. ハコネシダ *Adiantum monochlamys* Eaton 昨年このシダを松本市東部の山地、女鳥羽川上流の谷間に見出した。この種は暖帯の植物であるが県内では伊那谷にあるほか諏訪・北佐久方面からの報告もある。松本の産地は北佐久とともに本県では最北の産地である。(奥原弘人)

2. エビラシダ *Gymnocarpium oyamense* Ching 普通は暖帯で見られるシダであるが一昨年松本市の東部山地、薄川上流の谷間で見、昨年また女鳥羽川上流の谷間でも見た。このシダは木曽と下伊那では各地で見られ中信では島々にあり南佐久西部山地からの報告もある。松本の産地は県下最北の産地とみられる。(奥原弘人)

3. オオバノハチジョウシダ *Pteris inaequalis* Bak. var. *aequata* (Miq.) Tagawa 暖帯植物の一つであるこのシダを昨年北安曇郡小谷村の横川谷で見た。場所が海拔800mに近い高地であるためか、または株が若いためか葉長が40cm未満で胞子のうもなかったもので、倉田悟先生に同定をお願いした。このシダの分布は一般には茨城・新潟両県から西とされているが山形県の一部にもはいつているとのことである。県下では下伊那や木曽の暖地でも見られないが普通海岸寄りの暖地に産するというこのシダの特性から日本海に16kmというこの地にも育っているものと考え。横川谷は低地は海拔300mより低いので完全な標本も入手できると思う。(奥原弘人)

4. ギンバイソウ *Deinanthef bifida* Maxim. 関東から西の表日本の暖帯に分布しているこの草が一昨年松本市の薄川上流の谷間にあるのを見、昨年またその北隣の女鳥羽川上流の谷間にもあるのを見た。この草は伊那谷や木曽谷では各地で見られ先年木曽と塩尻市との境でも見ているが松本は最北の産地とみられる。(奥原弘人)

5. クロビイタヤ *Acer miyabei* Maxim. このカエデの主産地は北海道と東北地方であり菅平にも多い。一昨年中町市中綱湖南西の林縁にあるのを見た。他の高木の陰になって十分な生長振りはなかったが果実を見ることはできた。分布の南限であり西限であるとみられる。この湖や木崎湖の周辺は湿潤を好むこのカエデにとっては適地とみられるので開拓前には多くあったものと考えられる。(奥原弘人)